



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください http://www.amano-shingo.info

遂にラスベガスを超えた「マカオ」

静岡空港からマカオ空港に直行便を

「マカオ」と云われて、即刻、その地を思い浮かべられる方は決して多くはないと思います。旅行を趣味とする方ならその昔、買い物ツアーとして人気のあった「香港・澳門3泊4日の旅」という新聞広告を思い出すでしょう。

1999年12月それまでポルトガル領であった「マカオ」は中国に返還され、特別行政府として新たな歩みを始めたのでした。勿論、返還以前からカジノの町として日本人にも馴染みでしたが、遂に昨年、世界最大のカジノ都市に飛躍しました。即ち2006年のカジノの売り上げはラスベガスの65億ドルに対しマカオは70億ドルを計上したのであります。

マカオには「マカオ国際空港」があります。

当然のことながらマカオ航空は中国本土をはじめ台湾、バンコク、シンガポールそして平壤にも定期便を運行しておりますが現段階では日本との直行便はありません。ただ関西空港が現在、中国民航局に申請中とのこと。

脅威の成長を遂げるマカオ

これまで「カジノ」を愛好する日本人の多くは韓国のソウルや釜山、濟州島に遊びましたが、近年このマカオが韓国に取って代わりつつあります。

それは単にマカオが「カジノ」という賭け事以外にも中華料理、ポルトガル料理をはじめ、豊富な海鮮が準備され、さらに、近年ではラスベガスの向こうを張る素晴らしいエンターテインメントが展開されているのであります。

時宜にかなうマカオ直行便

恐らく数年後には、国内各地の空港からマカオへの直行便も具体化するでしょう。そこで平成21年3月に開港する富士山静岡空港は、今こそ、静岡～マカオ間の定期便の就航に全力を挙げるべきと提言します。

中部国際空港や成田空港が触手を伸ばす以前

いよいよ、参議院選挙自民党公認 牧野たかお候補の苦悩

愈々、盛夏の7月を迎え政界は、解決の糸口すら見えない年金の時効問題、社保庁改革など、自由民主党には極めて不都合な案件を抱えたまま、参議院選挙に突入するところとなりました。

正直、安倍総理の所謂「お坊ちゃん育ち」の体質が、例えば「泣いて馬鹿を切る」の勇気がなく、結果として松岡農相を自殺へ追い込んでしまったのもその一例であります。これまでも屢々、想定外の緊急対応に際し「甘さ」を見せてきた安倍総理でありました。

総じて安倍内閣の欠陥は、これまでも私のホームページに記載してまいりましたが、閣僚はもとより党三役の人事についても「適材適所」と云うよりは、寧ろ人情に絆されて選任した感があるのであります。

勿論こうした人事を行う裏には安倍総理自身が自らの手腕に相当の自信があつたことだったのでしよう。

確かに議会答弁や記者会見等の発言は「そつ」なく丁寧であり、好感のもてる姿勢と思えますが、残念ながら内閣の発足間もない現段階で、国

に、定期便が就航することができれば、空港はもとより静岡県にとつても大きな財産となると確信致します。敢えて云うまでもありませんが、提携できれば、東京や名古屋方面から毎日1～2便の需要があると信じます。

役人の上品な発想だけで本県空港の取り巻く厳しい環境は解決できるものでないことを、この際、言明しておきたいと存じます。

民の眼差しは、超個人的な前小泉総理とは遙かにかけ離れ、信頼に一抹の欠陥を感じるのであります。

昨年、党大会において圧倒的得票と期待を背に船出した安倍内閣は早くも国民の支持、不支持が逆転、当然のことながら自民党に対する好感度も大きく下落、この最悪の状況下にあつての参院選挙は将に「厳しい」一言でしょう。

昨年来、自民党県連は2名の候補者選考を模索してまいりました。この環境から所詮無理と判断、ついに「牧野たかお」氏だけに選考を絞り選考を組織しましたが、地方統一選挙の疲れもあつてムードは上がらず、「爽やか牧野たかお」の表情もひとつ冴えない昨今であります。

さらに「当選」の冠は時間の問題と殆どの関係者の思うところであれば、県連役員懸命に吹く笛に踊る姿は残念ながら見られません。

県議会3期12年、空港問題をはじめ、当面する県政の課題に真正面から取組んだ牧野たかお氏にご協力のほど、よろしく申し上げます。

東京の銀座、駿河台、吉原は静岡から誕生

徳川幕府の「実家」に相当する駿府の町が、その後の「江戸」の町造りに多大な貢献を果した事は、ご存知の事と思います。

そこで標記の地名について簡単に説明します。

東京「銀座」の歴史について

両替町の三笑亭近くに、「一分銀」等の銀貨を作る「銀座」がありました。慶長17年(1612)、「銀座」を將軍の居城する江戸に移設、これによって東京「銀座」が誕生、後に繁華街の代名詞となつて今日に至るのであります。ですから「銀座」の本家は静岡であります。

「駿河台」は現在の鷹匠1・2丁目

かつて武家屋敷として栄えておりました。三代將軍家光の頃、この地の武士に「江戸詰め」が命ぜられました、ところが江戸には住むべき場所がないために急遽、住宅団地を造成、ここに駿府の侍を住ませたところから、地名を「駿河台」即ち千代田区神田駿河台の起源となりました。

さて、「吉原」といえば紛れもなく

遊郭の象徴、今日でも「ソーランド」として多くの若者に支持されている所があります、その「吉原」と本市の係わりは殆ど知られておりません。そこで以下、浅薄な記憶を辿りながら記述して参ります。

昭和21年1月、公娼制度の廃止によって「二丁町」は消滅しましたが、この「遊郭」としての「二丁町」は駒形周辺の狭隘な土地を一〜五丁町(一

説には七丁町まであったという)に区分され、その昔、徒歩で東海道を往復する旅人の慰安所として繁栄しておりました。

一方、江戸ではわが国の新興都市として徳川幕府の発足以来、急速に発展。そのために社会資本の投資が急がれ、建設や土木事業に多くの男手が求められました。更には参勤交代の制度の発足により、江戸の町は偏った男偏重の社会が生まれ、所謂「女ひでり」の状態となり、為に世相は愈々怪しくなつて参りました。そこで幕府も「遊郭」の必要性を認識、急遽、駿府にあった

遊郭の一部、「三〜五丁町」を江戸の片田舎「吉原」に移設したのであります。

その結果、駿府の人々にとって何時の頃からか「遊郭」のある場所を「二丁町」と呼称、一方、江戸の片隅であった「吉原」の地名は遊郭の代名詞となつて、若者たちの歓楽街となつて今日に至つていたのであります。

余談ながら、山手線の「浜松町」は元禄時代の名主「権兵衛」の出身地である浜松に因んでつけられたとのこと、また「秋葉原」は天竜川の東岸にそびえる秋葉山の「秋葉神社」に由来、火災の多発地帯であったこの地域に防火の神様である秋葉神社を祀ったところからこの名前がつけられました。

一寸一言 私の雑記帳から

偽札の未遂事件

先月末、友人らと中国を訪ねたとき、の頓狂な経験をご紹介しておきます。

香港と目と鼻にある珠海(シウハイ)の税関を通過して、その日の宿泊を手配していた折、同僚が差し出した中国貨幣の50元札(凡そ800円)を訝しげに見入っていた事務員が、やおろこの紙幣を蛍光灯に翳したのでした。暫くして彼女はパントマイムよろしく、この札を破り捨てるゼスチャーをするのです。

「何の事だろう一片言にもならない私達の中国語では質すにも言葉はなく、どうすべきか思案しておりましたとこ

ろ、一人が「偽札・・・」と呟いたのでした。

やおら彼女は自分の財布から50元札を取り出し、私達に「見てみなさい」とばかり、二枚の紙幣を比較するように並べたのでした。成る程、明らかに「透かし」の濃淡に違いがあり「毛沢東」の映像は不鮮明でありました。

これぞ、まさしく「偽札」と私達も納得したのであります。お国柄でしようか、わが国では偽札を使つたとなれば、重罪になるところでしたが、彼女は相変わらずそのお札を土間に破り捨てるゼスチャーを続けておりました。

今、その偽札は唯一の土産として私の机の中に本物の50元札と一緒に収まつております。

彩時記

～華やかな花火、静かな花火～

夏の風物詩、花火。花火は中国で発明され、1543年、種子島に漂着したポルトガル船によって、鉄砲と共に日本に伝えられました。花火は世界共通のものですが、日本の花火には独特の華やかさがあります。

その代表が菊の花のように開く花火「菊花型割物花火」。花火がきれいな円形を描き、二重、三重に開きながら、花びらの一つ一つの色の種類や変化が楽しめるものは他に類を見ません。

また一方では、線香花火に代表される繊細で儂い花火も日本ならではの。「牡丹・松葉・ちり菊」と変化に富んだ小さな世界は、日本人の心の「わび・さび」を象徴するかのようで、やはり夏の定番として人気があります。

夜空に輝く華やかな花火ときめくもよし、静かに光る小さな花火に風情を感じるもよし。今年の夏も、やっぱり花火と共に楽しみたいものです。

歴史講座のお知らせ

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。このSHINGO-SCOPEの郷土史が好評です。その現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。